



広報

# イキシア

2018年5月

77号

イキシアには「団結して事にあたる」という花言葉があります。やっと関心を集めるようになったこの精神保健の分野に理想の福祉を実現する為にあなたの知恵と力をお貸しください。



だいち・そら



千葉拠点



大網白里拠点



柏拠点



長生

# 『事業計画』

理事長 寺田 一郎

今年はおの花びらが舞う中で新年度を迎えました。新卒職員七名が加わったの年度初めです。

昨年度は、社会福祉法人制度改正に対応して役員体制と法人運営を変更しました。また、施設整備では、柏での「地域生活支援拠点事業たんぼぼ」（事業費三億八百万円）、大網白里での「生活介護棟改修工事」（事業費三千万円）、千葉での「グループホームポルタ」（事業費一億円）が完了しました。

## 【今年度事業計画】

四月に改正障害者総合支援法が施行されましたが、十二年前の障害者自立支援法施行時とは地域の状況が大きく変わっています。特に就労支援や放課後等デイサービスなどの事業所が急速に増加して利用者の獲得競争が目につくようになりました。特別支援学校の門前に送迎の車が列をなしている光景はよく話題となります。利用者にとって選択肢が増えたことは良いことなのですが、外部の者に事業所の質まではわかりません。厚

労省が運営基準を特別に見直したのも質の悪い事業者を排除するためであったことを物語っています。

このことは、事業者側が積極的に情報発信することや質の向上に向けた努力を続け、他事業所との違いをアピールすることが必要となってきたことを意味します。単にワーカーホームという看板に頼る経営は成り立たない、ということなのです。

また、この現象は地域のニーズに合わせた事業の展開を常に視野にいれながら活動していくことが必要になったということでもあります。そのキーワードは「共生社会」です。年齢、障害の有無に左右されない福祉サービスの提供を想定しての福祉体制作りです。福祉の総合化です。ワーカーホームも今後の方向性を決める上で難しい選択を迫られているということなのです。

## 【報酬改定】

四月に実施された障害福祉サービスの報酬単価の改定に合わせて新たなサービス類型等が示されました。基本的に

ワーカーホームが実践してきた重度・高齢化、困難事例への取り組み、医ケア児童支援などが報酬に反映されるようになったと言えますが、新サービスへの取り組みについては、地域のニーズ、法人の事業運営方針などの視点で慎重に検討することとしました。

なお、就労継続支援事業（B型）においては、減収が予想されるのでその対策を各事業所で検討しなければなりません。とんだ報酬改定です。

## 【事業撤退】

一方、千葉県の単独事業である中核地域生活支援センター「さんぶエリアネット」及び生活困窮者支援法による生活困窮者相談支援事業「大網白里くらしサポート」「さんぶくらしサポート」及び障害者虐待防止の受託事業からは撤退することとしました。

## 【事業計画】

今年度の法人運営に当たっては次の基本方針で取り組みます。

### (1) 法人の運営体制

① 拠点について、柏拠点、千葉拠点、長生拠点、本部拠点(居

住系、日中活動系)の四拠点とし、それぞれに統括施設長を置き、拠点内の情報共有と連携を強化する。

② 人事課を設置し、課長(施設長相当以上)を配置し、人材の確保・育成に力を入れる。

③ 制度や地域福祉に関する情報の収集及び広報誌、ホームページ等による情報発信を効果的に取り組む。

### (2) 事業展開

① 新規グループホームの整備(用地取得済、茂原市)

② クロワール(大網白里市、新ホレブ寮併設)の居室等改修工事

③ 新障害福祉サービスへの対応(日中サービス支援型GH、自立生活援助、共生型サービス、医ケア児支援など)

### 【労働環境の改善】

人材の確保と質の向上。これは経営者にとって永遠の課題です。ワーカーホームの昨年四月と今年の四月の正職員

の給与額を比較すると三三三〇万円増加しました。今年には新卒職員が増えたこと、パート職員から正職員への登用が進んだことや基本給の定期昇給などが原因ですが、この方針は今後も堅持していきたいと思えます。

また、中堅職員から施設長への登用を積極的に行った結果、四名の施設長が誕生しました。これからのワーカーホームを託すような気持ちで辞令を交付しました。

さらに有給休暇の取得率を向上させることやリフレッシュ休暇(一定の勤続年数ごとに有給休暇を取れる制度)の活用や資格取得援助でモチベーションを高める工夫をしたと思います。なお、私自身もリフレッシュ休暇の対象です。今年度こそ取得しようと思っています。小遣い付き、連絡無用という制度をやつと取れる環境になったということ

ワーカーホームでは、キャリアパスを導入し、職員がライフプランをイメージしやすいようにしてきました。それぞれの個性に応じた働き方ができるような環境を整えることとは快適に働ける第一条件だと思います。

施設運営を永年やっている、多くの職員の私生活が否応なしに絡んできます。結婚、子供の誕生、病気、親の介護等々……仕事と私生活は別ものとは言ってもやはり法人と職員とその家族は運命共同体なのだと思うことが度々あります。将来の生活設計が共に描けるような関係を紡いでいきたいと願っています。

また、中堅職員から施設長への登用を積極的に行った結果、四名の施設長が誕生しました。これからのワーカーホームを託すような気持ちで辞令を交付しました。

# 所内研修 「研究発表」

ブローニユの森  
職員交換研修

## ■ 優秀賞 ■

ワークシヨップ「つなげよう」

「就職！失敗したっていいじゃないか！」〜就労定着支援制度スタートに向けて〜

このテーマには就職に不安を感じ躊躇している利用者に対し失敗を恐れず就職に挑戦して欲しいとの思い、就職して様々な事情で退職したとしても就職しなければ得られないものが必ずあり失敗してもやり直し出来る事を知ってほしいとの思いを込めました。

内容は、就職者の定着実態と就職者データ、定着者インタビュー、事例を通じた定着支援の現状と課題です。

定着者インタビューでは就職した五名に①今の会社を選んだ理由②仕事をして大変だったこと③苦労や大変さをどう乗り越えたか④仕事をすることで心掛けている事⑤会社側の配慮⑥長く働くために大切だと感じている事について答えて頂きました。

インタビューを通し利用者が長く勤めるために大切な事は体調管理、職場環境に慣れる、休まず仕事に行く、丁寧

な仕事、問題点を自ら相談する、自分に合った働き方（短時間労働等）、自分の強みを生かせる仕事に就くなどの意見がありました。

また定着支援では作業能力だけで判断しない、一緒に仕事をしたい、利用者の得意な事、不得意な事を見極め具体的な解決方法を一緒に探す、利用者との信頼関係を築き、相談出来る安心感を持つてもらおう、利用者のちよつとした変化（不調のサイン）等への気づき、企業側との情報共有と信頼関係の構築が大切である事を再認識しました。

今年度から始まる就労定着支援では利用者と共に個々の課題に挑戦し就労定着率八十%を目指します！（綾山）



## ■ 貢献賞 ■

ホレブ寮・ノバハイツ白里

「共同生活での支えあい」  
〜それぞれの役割〜

今回の研究は灰皿掃除を毎朝行ってくれた利用者が逝去し、それを他利用者が引き継いでいたことがきっかけです。他にもそれぞれの役割があるのではないかと思ひ、調査に至りました。

調査の結果、半数以上の方が自分の役割（掃除、プログラムの手伝いなど）を持っており、協力しながら生活をしていました。これからも自分の役割を継続し、支えあいながら共同生活を送れる場所にしていきます。（小川）

山武ブリオ・長生ブリオ

「就職からの定着支援」

私たち障害者就業・生活支援センター合同チームは「就職支援からの定着支援」という発表でした。

就職後の定着率（六か月後・一年後）で見ると、山武ブリオは精神障害の方が、長生ブリオは知的障害の方が多く就労が続けられています。

それぞれのブリオで行う電話相談や訪問の支援頻度にもその違いが傾向として明らかになりました。

研究から分かった支援の組み立ての違いを、二つのブリオが互いに良いとこどりをし、今後の支援に役立てたいと思います。（町山）

長生地域活動支援センター・ワークシヨップ茂原

「タバコとメンタルの関係」  
〜禁煙で、からだもこころも健康に〜

統合失調症の人は喫煙者が多くタバコが健康を害する事は誰もが知っている。禁煙出来るのではと研究しました。アンケートを実施し喫煙率は約三割、禁煙は発症前からの習慣で禁煙を考えている人が多い。

禁煙する事で症状の悪化はないが、服薬には影響が出る事が解りました。

統合失調症患者にとってタバコは必要不可欠ではなく、強い意志があれば禁煙可能であり喫煙しなくても安心して過ごせるように支援していきたいと思います。（森（敦））

二月七〜九日の三日間、栃木県にある社会福祉法人ブローニユの森へ交換研修に行きました。

ワーカーホームと同じく精神障害者を主に支援しており、支援の違いや課題などを共有することが出来ました。高齢化の問題や三障害の受け入れによる支援の違いでの戸惑いなど、共通する課題について意見交換をする機会もあり、自分にはない新たな刺激を得ることが出来ました。

貴重な三日間という時間をいただき、この経験を糧に今後の業務に精進したいと思います。（橋本）

職員の姿勢や利用者との関わり方について勉強と思ひ研修に臨んだ。研修に入った時から職員が笑顔で利用者への対応をしている。大きな家の中に職員と利用者が生活しているような感覚もった。又、職員に関しても真剣に利用者者を第一にしており、分け隔てなく友達や家族感覚で、利用者への関わりをもっている。温かい心で接する事で、人は変わると感じた。支援の関わり方の違いを学び、学びを同じ様にすることは難しいが、自身なり今後の支援に活かしていきたいと考える。（岡田）

# 2018 事業計画

## 大網白里拠点 (居住)

### 【基本方針】

今年度から大網白里拠点を居住系と日中活動系に分けそれぞれ統括施設長をおく管理体制とし、新ホレブ寮、クロワール、ファミーユ、だいち、ホレブデイサービスセンターの一体的な運営体制となった。また、各グループホーム等の地域や法人内における役割分担に基づく運営を実現する。

さらに、相談を含めた日中活動系と緊密な連携を取り、利用者について丁寧な支援を行うとともに緊急時にあつては職員相互の助け合いを行える拠点運営を行う。

これらの体制を整備することによって、地域から求められている触法障害者や医療観察法対象者、困難事例などへの支援を効果的に行いたい。各事業所の基本方針は、次の通り。

### 【新ホレブ寮・クロワール】

報酬改定で「共生型介護サービス」の指定を受けることが可能となったことを受け、重度・高齢の障害者の受入れを明確にする。

そこで二階部分の新ホレブ

寮について個室化する。また、玄関を自動ドアにする。

### 【ファミーユ】

ファミーユは、生活面での支援業務が増えているので、丁寧な面接相談による利用者状況の把握によって安全な施設運営を行う。

### 【シエスタ・ノバハイツ白里】

短期入所事業の多様なニーズに合わせて対応してきた結果、時間外の受入れや長期の受入れということも起こっている。地域との連携と再アセスメントによって最適なサービスを提供する。

### 【ホレブデイサービスセンター】

送迎範囲の拡大、介護予防プログラム、介護技術の向上などをテーマとして事業運営を行う。特に高齢利用者の支援を通じて共生型サービスについて検証する。

(寺田)



## 大網白里拠点 (日中活動系)

パンキンハウス（相談支援）、ワークショップしらす（就労移行、就労継続支援B型）、障害者就業・生活支援センター山武ブリオの三事業所を日中活動系と位置づけます。この三事業所は、就職を目指す方の支援、就労訓練や生活支援を希望する方の支援、そのためのサービス調整やプラン作成と連携は不可欠であり、支援方針、情報の共有を図り対応します。

パンキンハウスの相談支援では、四月の報酬改定で、基本報酬を引き下げ、加算の積み上げによる質の高い事業所が評価される形になりました。今年度の経過措置期間中に、各自が担当する既存の登録者の支援状況を新報酬体系に置き換え、収支の把握と職員配置を検討し、事業所の安定を図るためにも特定事業所加算を得たいと考えています。

ワークショップしらすとは、今年度、新施設長として野老順子が就任いたしました。相談系、居住系、ジョブコーチ等の経験がある野老です。どうぞ温かく応援してください。

運営においては、精神障害の支援を主としつつも、ハード面、ソフト面で受入れ可能な限り三障害の受け入れを行い対応します。そのためにも、障害の特性を理解し対応する支援力（個別支援の充実、特性を考慮しての作業指導）を高めていきます。また、今年度、新たに創設される就労定着支援事業を年度中に開始し、就職後のフォローアップの強化を図ります。

障害者雇用促進法による雇用率の拡大や精神障害者の短時間労働がダブルカウントとなる特例措置が設けられ、増加する精神障害者の就労支援、精神障害者の定着支援の強化が求められています。障害者就業・生活支援センター山武ブリオではフットワークよく専門的な対応を目指します。

(高木)



### 千葉拠点

国の方針は、「地域包括ケアシステムの構築」である。千葉拠点でも誰もが助け合いながら過ごせる地域作りをして、利用者が地域の一員として自分らしい生活をすることを目指している。

グループホームフジエールでは、新たに共同生活住居「ポルタ」が四月から開始した。（詳細は別途掲載）地域でさまざまな人と関わり合いながら生活をして欲しい。

ワークシヨップ兼取は、引き続き、パンの製造・販売（ページブル兼取店）、受注作業（バクチーの仕分け・タグ付け・割りばし等）、環境整備作業を行う。ページブル兼取店は、三月に店内改装を行い、店の雰囲気も素敵になった。来店者増加に力を入れたい。受注作業は、誰もが行える作業として安定的に供給できるように工夫したい。環境整備作業は、最近では下総精神医療センター敷地のみではなく、近隣住民からも除草作業を依頼されるようになった。高効率や作業時間を増やすことで、工賃向上を目指し

ている。一方、就労移行支援事業では、就職希望の方が就職できるように、アセスメントや訓練に力を入れ積極的に就職活動の支援をする。障害者総合支援法改正の新事業である就労定着支援事業も就職者の動向を見ながら、開始時期を考えていく予定である。

兼取相談支援センターは、「地域移行」に引き続き勢力的に取り組みたい。「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築事業」を千葉市で今年度も受託し、兼取相談支援センターが一部事業を委託された。一人でも多くの人が退院し自分の希望する地域生活をして欲しい。高齢者も子どもも障害者も健常者も地域で交互に支え合い、交流できるネットワーク作り、地域包括ケアシステムの構造化が大きな目標である。

(三好)



### 柏拠点

柏拠点では、昨年十一月柏市において二か所目となる地域生活支援拠点たんぼぼを開所しました。なにかあっても大丈夫と思えるような「安心と信頼」を担保し、何があっても当たり前に一緒にいられるための「つながりと相互理解」がここから広がる地域生活支援拠点を今年度も目指します。

今年度は、障害福祉サービス等報酬改定が施行されました。改定の基本的な考え方として示された○障害者の重度化・高齢化を踏まえた障害者の地域移行・地域生活の支援等○障害児支援の適切なサービス提供体制の確保と質の向上(医療的ケア児への対応)○精神障害者の地域移行の推進○就労継続支援に係る工賃・賃金の向上や就労移行・就労定着の促進という課題は、柏市において解決すべき課題として地域生活支援拠点に盛り込んだ機能そのものです。柏拠点では、地域生活支援拠点を、安定的かつ継続的に実施するため、拠点全体で以下の課題に取り組みます。

#### 一 環境の整備

必要な支援をより効果的に提供できる環境と、地域との交流を生み出す環境を整備します。



#### ① ページブル柏新設

定員四〇名多機能事業所として運営していたわたげワークスのペーカリー作業の機能を分離し、新事業所としての運営を開始します。

#### ② 食堂の整備

作業以外の時間を過ごす居場所を作り、利用者間の交流を促すとともに、柏拠点の食及び栄養管理の二元化と充実を図ります。

#### 二、適正な運営

新規事業開始に伴い投資した人員や設備を十分に生かし、運営の安定を目指します。

#### 三、人材の育成・定着

働きやすく、それぞれの能力・意欲を活かすことのできる労働環境整備に努めます。

時代は変わり、障害児者を取り巻く環境が変わっても、その人がその人らしく、住み慣れた地域で暮らしたいという想いに柏の地で寄り添い、今年度も歩みたいと思えます。(大久保)

### 長生拠点

長生拠点の統括施設長に就きました山岡です。今年度、長生拠点では初となるグループホームを整備します。

長生地域生活支援センターは、精神科医療機関との連携を図って地域移行支援を進めます。憩いの場は従来の活動に加え、「メンタルサロン」や、地域の様々な事業所を利用する精神障害の方に参加を呼び掛ける「合同パーベキュー」、また長生健康福祉センターと協働で開催する「当事者交流会」など、精神障害者の活動や交流が活発になるようプログラムを工夫します。

障害者就業・生活支援センター長生ブリオも精神障害者の就職と職場定着が向上するよう力を注ぎます。

ワークシヨップ茂原(ページブル茂原店)は、工賃の増加を楽しみに通って来る利用者の期待に応えるため、新商品のパンの開発や販路の工夫を行っています、売り上げを増やそうと計画しています。職員の入替わりもあったので、「支援の質」と「パンの味」が低下しないよう努めます。(山岡)

2018年4月

## 施設長就任

ワークショップしらさと

## 野老 順子



入社14年目を迎え、4月よりワークショップしらさと施設長に就任しました。入社してからホレブ寮、パンプキンハウス、だいちと色々な事業所で勤務してきました。

ワークショップしらさとへ配属となり4年目となります。一緒に作業したり、就職に向けて企業見学、公共交通練習など利用者を支援していく中、たくさんの事を学び自分自身も成長することができました。

通所している利用者は、就職したい、お金が欲しい、日中活動の場として利用したいなど目標・ニーズは様々です。利用者のニーズに耳を傾け、利用者の気持ちを受け止め、今まで経験してきたことを支援に活かしていきます。

また、支援には職員の力が大切です。働きやすい環境作りに努めます。これからも宜しくお願いします。

新ホレブ寮・クロワール・シエスタ  
ファミリー・ノバハイツ白里

## 武藤 朱里



この度、新ホレブ寮、クロワール、シエスタ、ファミリー、ノバハイツ白里の施設長に就任しました。

私は、大学を卒業後すぐにワーナーホームに就職し、結婚、出産、4か所の施設を経験して、15年が過ぎました。最初は、約5年間ホレブ寮の生活支援員でした。ワーナーホームの魅力を感じ、ホレブ寮が大好きでした。今回、ホレブ寮とノバハイツの施設長に任命されたことは、嬉しい反面、身の引き締まる思いです。

また、仕事をしている中で常に考えてきたことは、「役割」です。ワーナーホームの役割、職員の役割、それぞれの立場で必ず誰にでも役割はあると思います。これからは、施設長としての役割を考え、利用者がその人らしくワーナーホームで生活できるよう環境を整え、職員には理念を継承していけるよう努めます。

たんぼぼセンター  
(相談支援事業)

エクラス

## 小助川 左代



この度、たんぼぼセンター相談、エクラス施設長に任命されました。これもひとえに、日頃から支えてくださった上司、同僚、関係各所皆様のお陰であると、心より感謝申し上げます。今後どうぞよろしくお願い致します。

施設長として、今年度の目標を2つ掲げます。1.地域において、地域生活支援拠点が高く周知・活用され、また福祉だけでなく幅広い分野とつながり、より良い地域福祉へ貢献できること。2.柏拠点において、①3号館内の3事業（相談・短期入所・訪問看護）連携を活かした専門的支援の提供、②経営と人材を安定させ良い支援を提供出来ること。

柏拠点として、大久保統括施設長や新しいリーダー達と力を合わせ、新体制で頑張っていきます。

たんぼぼセンター  
(地域活動支援センター)

わたげワークス

## 上野 泰典



私がワーナーホームに入職したのは2010年4月。初めての福祉業界での仕事、毎日が学びの日々でした。それから8年、この度施設長に就任することとなりました。

担当する「たんぼぼ（地域活動支援センター）」「わたげワークス」は、地域の方々に支えられながら、利用者と一緒に悩み、一緒に考え、一丸となって作り上げてきた場所です。地に根を張る力強い「たんぼぼ」、そしてふわふわと地域に幸せの種を蒔く「わたげ」のように、これからも利用者・地域にとって素晴らしい場所出来るよう、皆で一丸となって取り組みます。

ワーナーホームが築いてきた道に、新たな道を作っていけるよう、法人理念を念頭に、覚悟を持って施設長の責務を果たします。どうぞご指導ご鞭撻の程、よろしく願い致します。



● 2018年4月 OPEN ●

# 千葉拠点 新グループホーム「ポルタ」



二〇一八年四月、ポルタの入居開始となりました。まずは、フジエールで三年間を過ごした六人が入居しました。荷物の片づけはせずに、満面の笑みを浮かべどこに何があるかを見て回る余裕のある人、なかなかできないTVチャンネル設定に夢中になる人、みんなにお祝いにお菓子を配ってくれる人など、様々な初日を迎えました。それでも、みんな近くのスーパーに買い物に行き、食堂で夕食を囲むころには、いつも以上に冗談を言い合って、新しいグループホームを喜び合いました。

ポルタは、定員十名の二階建て、共同生活援助（介護サービス包括型）のフジエールと一体的に運営する共同生活住居です。一室六畳の個室に、寛げると早速評判の居間・食堂、安心感のある空間の演出に腐心した相談室、会話が広がる対面式キッチン、人の出入りが見やすい事務室など、至る所に工夫をしました。二〇一七年一月十三日に土地を購入し、入札を経て十月一日に着工。二〇一八年三月十九日に引き渡しを受けたばかりの新築です。建設に当たっては、千葉市障害福祉サービス事業所整備費補助金の交付決定を受けましたが、総事業費



(末永)

は一億円ほどに上ります。ポルタとは、イタリア語で「扉」を意味します。「地域に開かれた扉」という意味を込めて名付けました。ポルタを利用する人達に、街に溶け込んだ暮らしをして欲しい。そんな願いを込めています。その立地は、フジエールからは車で十分程の大網街道沿い。コンビニ、スーパーやクリニックも至近かつ複数あり、バス停や駅にも程近く、利便性が高い立地です。ここで暮らす皆さんが地域の人から受け入れられるようにと、町内会にも顔を出しています。地域の行事にも参加する日を楽しみにしています。

精神障害者がより地域に溶け込んで暮らせる環境づくりと関係づくりに気を配りつつ、地域に貢献する気概を持って、フジエール職員一同協力して支援に取り組んで参ります。

## わーなー日記 《フジエール》



フジエールは、主に精神障害者の方で自立した生活を目指す方を対象とした三年間の通過型のグループホームです。下総精神医療センターに隣接しており、連携しながら支援を行っています。

平日は、隣接しているワークショップ兼取や下総精神医療センターの作業療法等の日中活動に通所されている方や、病院の清掃やスーパーの品出しの仕事に就いている方もいます。週末は、土曜日の午前中に館内の共有部の清掃、午後には買い物ツアーで近くにあるミスターマックスやベイシアへ行っています。日曜日の午前中は散歩をし、他愛もない会話をしながら利用者とのコミュニケーションを深めています。



平日は、隣接しているワークショップ兼取や下総精神医療センターの作業療法等の日中活動に通所されている方や、病院の清掃やスーパーの品出しの仕事に就いている方もいます。週末は、土曜日の午前中に館内の共有部の清掃、午後には買い物ツアーで近くにあるミスターマックスやベイシアへ行っています。日曜日の午前中は散歩をし、他愛もない会話をしながら利用者とのコミュニケーションを深めています。

また、服薬や金銭に不安を抱えている方は、職員と一緒に管理をしながら少しずつ自己管理ができるように支援しています。

フジエールから卒業された方の中には、アパートで一人暮らしをされている方や、ポルタに転居された方もいます。今後も、利用者が自分らしく地域で生活できるよう、利用者者に寄り添った支援を行っていきます。

(北條)

さんぶエリアネット・  
くらしサポート  
事業終了

中核地域生活支援センターさんぶエリアネット及び生活困窮者自立相談支援事業くらしサポート(大網白里市・山武郡)は、二〇一七年度末の契約期間満了をもって事業を終了致しました。

さんぶエリアネットは、二〇〇四年十月の事業創設以来十三年半の間、山武地域の総合相談支援機関として活動すると共に、山武圏域自立支援協議会の事務局活動を通じて、山武の障害福祉に貢献してきました。くらしサポートは、二〇一五年度の生活困窮者自立支援法施行以来三年間、大網白里市及び三町(九十九里町・横芝光町・芝山町)の地域を対象に、様々な原因や背景によって生活困窮に陥っている方々への相談支援機関として活動しました。

これからもワナーホームは、地域の課題やニーズに応じて支援活動を行ってまいります。

これまでご相談いただいた方々、支援を一緒に行っていた地域住民の皆様、並びに関係機関・団体の皆様、本当にありがとうございました。(吉井)

ワナーホームの主な動き

《一月》

- ・書初め/ホレブ
- ・初詣/ホレブ・ホレブデイサービスセンター・ワークショップらさと・だいち・ワークショップ茂原・長生地域生活支援センター・フジエール・すくすく
- ・障害者就労促進チャレンジ事業 障害者向け見学会/長生プリオ
- ・障害者雇用促進就職面接会/長生プリオ
- ・ゲーム大会/フジエール

《二月》

- ・豆まき/ホレブデイサービスセンター(生活介護)・フジエール
- ・航空博物館、坂田池公園見学 散策/ホレブデイサービスセンター(自立訓練)
- ・日帰りバス旅行「スカイツリー」/ワークショップ鎌取

《三月》

- ・就労ミートイング「そば打ち体験」/山武プリオ
- ・ひな祭り/ホレブデイサービスセンター(生活介護)
- ・ピーバー号(歯科検診)/ホレブデイサービスセンター(生活介護)
- ・花見/ホレブデイサービスセンター(生活介護)・すくすく・ワークショップ鎌取

- ・いちご狩り/ホレブデイサービスセンター

ビスセンター(自立訓練)

- ・進級お祝い会/すくすく
- ・外出プログラム「マザー牧場」/長生地域生活支援センター
- ・食事会「スシロー」/フジエール



《四月》

- ・アコーディオン演奏会/すくすく
- ・ページブル合同二号館開所の集い/すくすく
- ・ページブル鎌取店三周年記念リニューアルオープンセール/ワークショップ鎌取
- ・外出プログラム「ランチピクニック(茂原公園)」/長生地域生活支援センター
- ・花見「昭和の森」/だいち

収支決算書

イキシア会  
単位:円

自2017(平成29)年4月1日 至2018(平成30)年3月31日

支出		収入	
科目	金額	科目	金額
振込料	23,074	会費 (166名)	941,000
小計	23,074	小計	941,000
次期繰越	5,010,208	前期繰越	4,092,282
合計	5,033,282	合計	5,033,282

イキシア入会のお願い

イキシア会は利用者とそのご家族及び一般有志からなるワナーホームの支援団体です。活動においてご理解をいただき、ご支援・ご協力を賜ります様宜しくお願い致します。

広報イキシアは年三回(一月・五月・九月)発行されます。

賛助会員 三,〇〇〇円(年)  
正会員 一〇,〇〇〇円(年)

編集後記

ホレブ寮は、二十代の職員が七名となり、一気に活気が溢れています。新入職員も一ヶ月で少しずつ業務に慣れ、たくましくなりつつあります。

若さとパワーをもらい、今年度も一丸となって頑張っていきます。(M)

発行所

ワナーホーム  
イキシア会

千葉県大網白里市細草3215

電話 0475-77-2100(代)

URL http://www.wanahome.or.jp

発行人 寺田 一郎